

Trey Clover × Jade Leach

TWISTED WONDERS AND  
unofficial fanbook

R18  
adult only

愛しの  
リトル  
ラブ





## ATTENTION

この本は2023年10月開催のwebイベント『はみがきのこ』にて、合同サークル【Last tea】として展示した漫画・小説に一部加筆修正、描き下ろしを加えた物です。

- ・年齢操作
- ・攻め喘ぎ
- ・受け優位
- ・その他諸々…

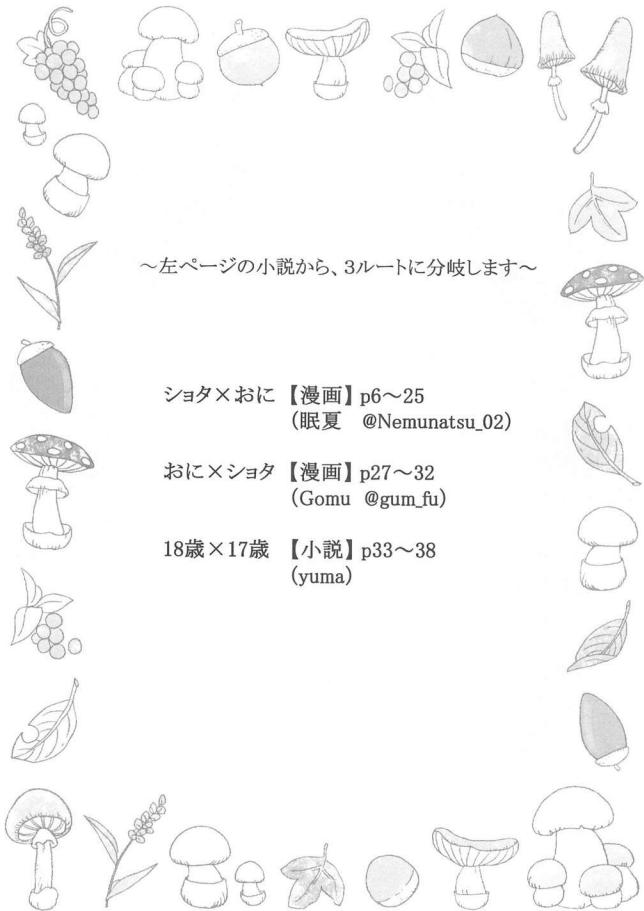
何が出て大丈夫な方のみお進み下さい。

～左ページの小説から、3ルートに分岐します～

シヨタ×おに 【漫画】 p6～25  
(眠夏 @Nemunatsu\_02)

おに×シヨタ 【漫画】 p27～32  
(Gomu @gum\_fu)

18歳×17歳 【小説】 p33～38  
(yuma)



ガサガサと茂みを掻き分ける。ジェイドは取り憑かれたように膝を付いた。

「ありました……！」

草に紛れて一つだけ生えていた小さなキノコを潰さないように慎重に引っこ抜く。紫色の独特な色の傘は朝露に濡れてテラテラと光っていた。

「やっと思つきました！」

嬉しそうにキノコをくると回す。そして口角を上げてニッと笑った。

「ふふっ……これでトレイさんを……」

楽しみですね、と笑いながらキノコを大切にしました。

\*\*\*

カチャリと茶器が音を立てる。ジェイドはゆっくりと紅茶を注いだ。

「お、良い香りだな！」

「ふふ……特別に取り寄せた茶葉なのですよ」

「へえ……」

強めの香りが鼻腔をくすぐる。テーブルの上に並べられたキーキヤクッキーはトレイが用意し、紅茶はジェイドが用意する。それが彼らのいつものティーパーティーのルールだ。

「癖になる香りだ」

「でしょう？ ゆっくり味わって飲んで下さい」

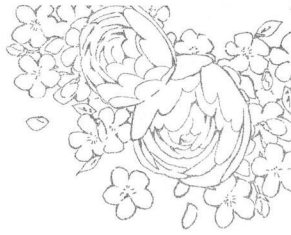
ジェイドはトレイの前にカップを置く。ゆらゆらと揺れる水面にトレイの顔が映った。

「……ありがとう。楽しみだ」

カップに口を付けた。こくり、と喉が動く。ジェイドは目を細めて、妖しく笑った。

↓ 各ルートへ





…で？

眼鏡の度が  
合わない…

これは一体  
どういう事だ？

可愛いです!!



ほろ

高い高いー!!

小さいトレイさんを見てみたかっただけですよ——♡

ちよつっ、高い

降ろして!!

スポンジパンツ返して!!



ちゅ

紅茶に何  
入れたんだ?

あじスポンジ  
パンツ返してこれ

ふふ...

珍しいキノコを少々...  
害は無いので御安心を。

ふうっとり

それば  
また後で♡

...これで漸く

小さいトレイさんを  
可愛がれます…♡

え…？

くちゅ♡♡♡

んっ

はぁ

くちゅっ

はぁ

うっ

はっ

きゅる♡

じえ…どっ

あー…子供の力じゃ  
とても敵わないな…

きゅる♡

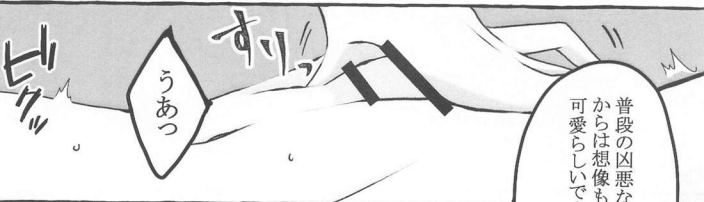
んぐ…♡



とても可愛いです、  
トレイさん…♡

……ああ

……ずいずい…



普段の凶悪なトレイさん  
からは想像もつかない程  
可愛らしいです…

うあつ



ジエイドツ

やめ…っ

オニキ  
♡

ヒクッ♡



おや、  
どうしました。  
まさかもう限界で？

はっ

もう…っ



感覚がいつもより  
敏感になってる…？

はー？



まだほんの少し  
触っただけですよ？

ほら、  
頑張れ頑張れ♡

あっ

う…っ

びくっ

は

♡♡♡

♡♡♡

♡♡♡

は

ギョウッ

!!



…んふふ♡



…出てない…？



ちんちん

た…

上手にイけまし



リン



トレイさん!!

うお!?

…です

え？  
何だつて…？

ちんちん…



気持ち良くなかった…ですか？

…は？



何でだ？

き、気持ち良かったぞ？

可愛い…

だって

出てないです。  
イけなかったんでしょう？

ん!?

…あー、  
そういう事か

多分この身体  
まだなんだよなあ

えーと

ジェイド、あんな

すみません  
トレイさん。

稚魚の身体だからと  
手加減し過ぎました

次は





良かった…  
気持ち良さそう

あああつ

ちやんとイかせて  
差し上げますね♡

♡  
♡  
♡  
♡  
♡  
♡

あ

ん…っ

トレイさん好き  
可愛い、好き♡

ジュエ…  
ツツ

来る…♡



やめ…っ  
無理、出ないっ

ん…  
気持ちくない…?

ちがつ…

そうじゃ…な…っ  
この身体はっ

とれえさん…好き

…ジュエ  
はッ

…あ…っ?

♡  
♡  
♡  
♡

♡  
♡  
♡



今度はイけましたね

トレイさん…実は僕、  
後ろも準備してあるんです

♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡



何で…出…?

……?



でも今日は  
無理そうで…

ハハハ

ツェイド



交代

…はい

ハハハ

ハハハ



ああ、でも

子供の俺を  
可愛がつてくれる  
んだよな？

!!

…はい!!

はははは

…そうか、  
じゃあジェイド

脚、自分で広げてて

…はい

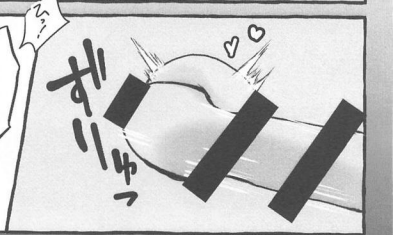
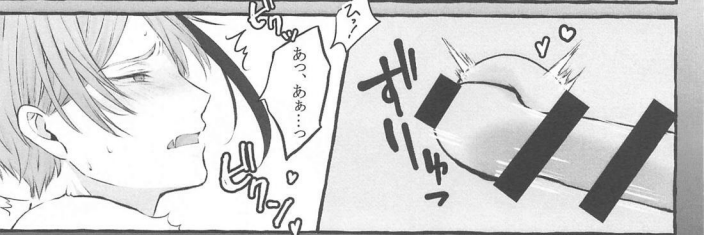
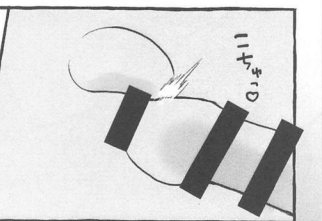
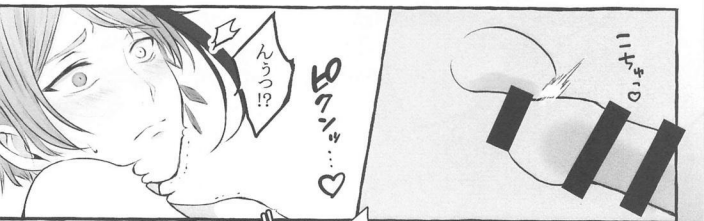
ははは

今の姿じゃ  
結構大変なんだよ

えっと、

それは…

…出来るよな？



身体の大きさを  
変えるキノコは

意地で解除して戻った

ハーツラビュルの  
おはこ  
十八番なんだよ

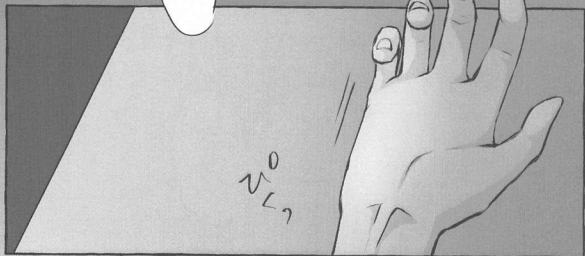
さあ

次も楽しもうな

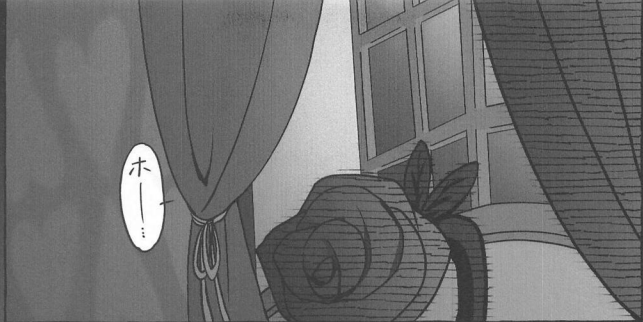
カキ…

カキ…

ホ—  
…



20  
7



ホー...



夜...

あれからどれだけ  
経ったんでしょう

今は何時？

確かラウンジの  
シフトは...

どうした、  
ジエイド？

あっ!!





考え事なんて  
随分余裕だなあ？

ふ、  
キキッ♡

ほっぺ♡

ひゅっ♡

トレ、さ...っ  
奥は、やああつ

キキッ

ハッ♡

ハッ♡

んキッ

びゅっ♡

は



本当にちゃんと  
反省したか？

はー？

くちゅ♡

はっ♡

ん♡

をっ♡

をっ♡



反省つ、しました...  
しましたからっ

いっくっ

はっ

だから、

もう...やめっ

は



おっ

んらっ

とれえさ...っ

ドキユッ

んー？

ぐちゅっ

やっ

それだめっ

ドキユッ

女ーっ

おっ

おっ

そうだなあ...

ちゅ

んっ

んっ

んう...

やすっ

んっ

やす

おっ

んー



End.

おまけ

ごはんを「あーん」してあげる。

シャンプーハット使ってシャンプーしてあげる。

もこもこ

あーん。

大丈夫ですよー♡

ぐう~~~~

寝かっけしてあげる。


すよ...

育児かな？

小さいトレイさんにやりたい事がもつとあつたんですよ...!!

しくしく

トント



トレジェイ本発行おめでとございます！  
今回ゲストとして素敵な御本に私のお話も  
添えていただき本当にありがとうございます！！  
眠ちゃんのショタおにがとでも見たいと常日頃から  
願っておりましたのでこうして本にさせていただき  
感謝で毎日夜しか眠れませんっ！！  
紙媒体で手元に残る幸せ最高です…！！  
本当にありがとうございました！

Gomu

「トレジェイのwebイベに出てみませんか？」  
全てはGomuちゃんのこの言葉から始まった。  
確かそう。  
何せ夜中の酔いどれもくり中の出来事だったので、  
多分二人共記憶は曖昧。  
でもGomuちゃんがいてくれなかったらこの本は絶対  
に完成していなかったです！！  
webイベもリアイベも気になってる癖に、腰が重くて  
機械音痴で優柔不断な私をいつも引率してくれて  
本当にありがとうございます！！  
Gomuちゃんの可愛くてえちなおにショタトジェを  
拝む事が出来て幸せです…♡  
書ききれない程の感謝を込めて♡

眠夏







しつこくどすっ!!



犬か! (笑)  
面白い例だな

面白く  
ないです!

舐められすぎて  
ふやけちゃいますっ!



何時間解して  
るんですかっ!

犬ですか!!



それは  
困るな

困って  
ませんよね

それに  
なんで怒ってる  
んですか?

ん?  
わからないのか?



数時間前





これは  
どういうことだ？

おや？  
僕が小さくなって  
しまいましたか



たまには嗜好を  
変えようかと

説明して  
くれないか？

し  
なんの嗜好だよ...



香りが怪しかった  
から中身だけ  
入れ替えてみれば...

おやおやおや  
気がつきません  
でした(棒)

わかってて  
飲んだのか...



僕今とても  
交尾がしたいです♡

トレイさん



仕方ありませんね

小さくなった貴方が  
交尾で奮闘する姿が  
見たかったんですが—



それに  
小さい子を  
抱く趣味は…

おや？  
もしかして  
怖けづいてます？



こんな可愛い僕の  
誘いを断るなんて  
酷いですっ

人のベッドで  
勝手に脱ぎ  
始めるな!!



待て待て  
なんでお茶会から  
そう言う流れに  
なるんだ？

僕の中では今日は  
その予定でしたので  
問題ありませんよ

大アリだろ



先日人魚姿の僕に  
興味がおありだと、

異種姦も経験済みの  
変態な貴方が  
怖けづくだなんて…

容姿が幼くなった  
僕の本番はよっぽど  
自信がないんですわ  
おや、おや、おや



あ…煽り倒した  
ことは謝ります…

謝りますから  
このまま  
最後まで—

ダメだ



思い出したか？

……



俺は臆病者の  
変態だから  
本番に自信が  
ないんだ

だから元に戻るまで  
前戯だけで  
勘弁してくれ



この後、元の姿に  
戻るまで半日かかり

おあずけに苦しむ  
羽目になった  
ジェイドくんでした

おあずけおあずけ

おしまい！

「……如何ですか？」

しつかりと嚙下を確認した後、ジェイドはトレイに尋ねた。トレイはもう一口飲み、うん、と頷いた。

「美味しいな」

「……？ それだけ、ですか？」

「ああ、少し体が温かくなつた気がするな」

「……！！ そうですか！」

不自然な程に声が高くなる。ジェイドはそのまま立ち上がってトレイの側に寄り、その首筋にそつと指を這わせた。まるで何かを確かめるような仕草に、トレイは自分の指を絡めた。

「……どうした？ ジェイド」

「おや？」

「全く困つたものだな」

指に力を入れ、ジェイドを引き寄せる。突然引つ張られ、バランスを崩したジェイドがトレイの太ももの上に手を付いた。

目を開くと今にもズボン突き破りそうな程、主張している股間が視界に飛び込んできた。

「なっ!!」

反射的に逃げようとするジェイドをトレイが抱き締める。本性がウツボのジェイドの力を優に超える力で押さえ込み、ジェイドは苦しうに呻いた。

「お前のポケットにあった菓を、紅茶に混ぜてあつた

「何か」に上書きしたんだよ」

「何ですって!!」

ギョツとしてジェイドが暴れる。その動きでトレイの中でますます確信に変わり、暴れる恋人を羽交締めにした。下手に動けば骨が折れる、そう本能が告げる。人間でありながら、人魚を超える力、だからこそカースト上位にいるジェイドが組み敷かれた理由のだけど、そんな事をつらつらと考えていると骨がミシミシと音を立てた。

「ぐうっ……!!」

「お前が俺に何を飲ませて、何をしようとしているのか気になつてな？」

「どうして分かつたのですか！」

「あははっ！ 簡単な事さ」

トレイはジェイドの耳元に口を寄せた。

「お前が山から取ってきたキノコは、俺達サイエンス部がこっそり育てていた。年齢操作のキノコだからさ」

「……！」

信じられないと瞠目するジェイドに、トレイは眼鏡の奥で目を光らせた。

「ルークから、一つ無くなっていると連絡が来たんだ。その周辺に残っていた足跡から、お前かフロイドだろうと推測して」

「……相変わらず恐ろしい人ですね……」

「恋人を幼児化させようとするお前程じゃあないさ」

トレイのマジカルペンが紅く光る。マズイと思った瞬間にはもう意識が混濁し始めた。

「さて……お仕置きの時間だ、ジェイド」

そう囁うトレイの顔を最後に、ジェイドは意識を手放した。

何度目かの射精に、ジェイドの目から涙がポロリと落ちた。強制的に広げられたアナルにはトレイの陰茎が深々と刺さっている。どれだけ回数をこなしても一向に慣れない太さに、ジェイドのアナルはギチギチと圧迫していた。

もう出ないと叫べば、真っ赤に反り立つ陰茎をしごかれる。

「ハッ……あうっ……も、やめっ……」

「媚薬のせいかな、またイキそうだ」

「……っ!! 中はやめて下さいっ! 僕もうお腹がパンパンで……!」

嫌だと抵抗すればアナルが縮まる。その刺激でトレイは幾度目かの射精をした。ジェイドの中から入りきらなかった精液がゴボゴボと溢れ出てくる。

「くる……っ……っ……!」

「俺を幼児化させた後、媚薬をどうするつもりだったんだ?」

「……くうっ」

「答えないかあ。じゃあ仕方ないな……」

\*\*\*

トレイはジェイドの陰茎を締め、先端を強くしごいた。耐え難い刺激に脳が焼き切れそうになる。ジタバタと足を動かせば亀頭の割れ目を摘まれた。電流のような刺激が走り、ジェイドはビクンビクンと跳ねた。

「まだイけるだろう？」

なあ？ と低い声がジェイドの耳朶を打つ。脳が揺さぶられ、艶めかしい声音に背筋がゾクゾクと震えた。

「ハハッ……その顔、好きだよ」

無意識に弧を描く口元を意識する前に、強烈な刺激にジェイドの喉が反る。トレイが自身を根元まで挿れた衝撃にジェイドは射精した。

「あああつ……!! イクツいくつ……!!」

ビュービューと吹き出す精液はベッドにドロリとしたシミをいくつも作る。ガクガクと痙攣するジェイドの腰を掴み、トレイはごちゅごちゅと音を立てながら執拗に奥を突き上げた。

「もうっやめてっ止めてくださいい!!」

「まだだ」

「イッてます! 何回もっ……お願いですからっ」

「だめだ」

ぐりぐりと最奥の柔らかい箇所を亀頭で擦る。ジェイドは震えながら首を捻り、トレイに視線を向けた。

「トレイさんっ……むりです、そこは」

「入るだろう？」

「今はだめです!」

ジェイドは蒼白な顔でトレイの腕を引き離そうと引つ掻く。何本も傷が出来てもトレイは全く気にせず、むしろ陰茎を更に硬くさせた。

「ジェイド、いくぞ？」

「やめっ…………」

ごちゅん

凄まじい衝撃に喉の裏で火花が散った。喉からは破裂音が鳴り、口から長い舌が突き出て震えた。

トレイのいつもよりも更に極太な陰茎が、ジェイドの結腸を貫く。

「……カハッ……」

「ああ……凄いな。気持ち良いよ、ジェイド」

「……ヒ、い、ああ……」

「イキそうだ」

「や、ア……あ……」

掠れた声で抗議するも、トレイの陰茎が膨らむ。次いで大量の精が腹を満たしていく。

「あふっ……ふあっ……ああっ」

苦しげに呻くジェイドは前屈みに倒れた。それでも抽送は止まらない。トレイは射精しながら陰茎を何度も振り込む。

「やあああ……だめっ……やめてえええ……」

「まだまだ薬が切れないんだよ」

「あああっ……ああ……」

突かれるたびにジェイドはプシャプシャと潮を吹く。カラカラになっても尚も突き上げられ、もう何も出ないのにそれでもイカされ続ける。ジェイドの陰茎は切なくぶるんぶるんと揺れた。

「くる……狂っちゃいますううう！」

ついにジェイドが唸るような泣き声を上げる。イツ

てもイツでも止まらないトレイは執拗に結腸の奥を突き上げる。気絶しそうになると陰茎を抜き、別の刺激を与えてくる。イキ続けてアナルを痙攣させると陰囊を揉まれ力を抜かされる。

思考が止まり、視界がぼやける。アナルを貫くトレイはいつまでも止まらない。

「ふっ……あははっ！ さすがに懲りたか？ ん？」

「もう……勘弁、して、くださ……い……」

「ん……」

ズルリ、と抜くとジェイドが詰めていた息を吐く。ようやく、と安堵した瞬間、肌がぶつかる音が響いた。

「……あ……？」

「あと一回、な？」

再びぶち抜かれた結腸は小刻みに痙攣し、ジェイドの陰茎はビクンビクンと脈打ち、透明の液体をチロロリと吐き出した。

\*  
\*

勝手に震える尻にジェイドは眉根を寄せる。動きたくても完全に腰が抜けて動けない。ご機嫌で鼻歌を歌いながら紅茶を淹れるトレイを睨んだ。

「ん？ なんだ、もう一回したいのか？」

「違います！」

「ははっそれは残念だ」

トレイはジェイドを起こし、紅茶を渡してやる。ジェイドは子鹿のようにプルプルと震える手で受け取り、紅茶をジッと見つめた。

「……僕の作った媚薬はそこまで持続性はなかったはずです」

「うん、そうだな。ジェイドにしては弱めだった」

「当たり前です。『幼児用』の媚薬なのですから」

ギロリと睨むジェイドに、トレイはしまったと目を泳がせた。

「貴方を幼児にすると萎えてしまうかもしれない、だから念の為に作っておいたものです」

「用意周到すぎて怖いな」

「そして僕が優しくお尻を抱いて差し上げようと思っ

ていたのに」

「とんでも無い事を考えていたんだな」

ジェイドがグビッと紅茶を飲む。カラカラの喉に温かい紅茶が染み渡る。

「なのに一体何と上書きしたのですか！」

「さすがジェイドだなあ」

「茶化さないで下さい！」

トレイはさして困ってないように笑いながら、ナイトテーブルから空の小瓶を取り出した。それを受け取ったジェイドは蓋を開け、わずかに残っていた液体を嗅いだ。

「ちよ……これ……」

「凄いだろ？ この前偶然出来た媚薬だ。効能は通常の三倍」

「トレイ、さん……貴方……！」

ぐらりとジェイドの体が傾く。トレイはジェイドを支え、紅茶をテーブルに置いた。ジェイドの体が見るみる赤く染まり、すっかり萎えていた陰茎がピクピクと反り立つ。



「ジェイドのような嗅覚に優れている種族だと、匂いだけで効果を発揮するんだな。参考になったよ」

「やめ……僕、本当にもう無理なんです……！」

ふるふると首を振るジェイドにトレイは目を細めて覆い被さった。

「悪いが、まだ付き合ってもらおうぞ？」


眼鏡を外して直視してくる瞳は、射抜くような熱を孕んでいる。さすがのジェイドも、今回は反省した。

ほんの少し。

後日リベンジに燃える姿を見つけたトレイは面白そうに笑った。

「本当に困った恋人だ」

終



トレジェイは大好きだし、よく読むけど書いた事は  
ありませんでした。  
まさかお声かけいただくとは思っておらず、  
もくりで囲まれた時はドキドキしました♡  
初のトレジェイwebイベにも参加出来て楽しかったです。  
勢いとパッションで書きましたが、何せ初めてですので  
生暖かい目で読んで下さると嬉しいです。  
眠夏ちゃん、お誘いありがとうございました♡

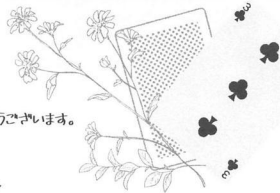
yuma

「トレジェイのwebイベに一緒に出ませんか？」  
webイベ参加を決めた一週間後。またもや開催される  
酔いどれもくりの場で、yumaちゃんはGomuちゃんと  
眠夏から勧誘を受けていた。  
「トレジェイは書いた事無いけど大丈夫かなあ…？」  
そんな不安を口にしたその一時間後くらいには、  
この本の冒頭小説を書き上げてもくりに投げてくれて  
いた。筆早過ぎん？  
yumaちゃんの18歳×17歳トジェ、とんでもなくえちち  
でした…♡  
トレ先輩の「だめだ」に何度心臓やられた事か…！！  
本当に本当にありがとうございました♡

眠夏



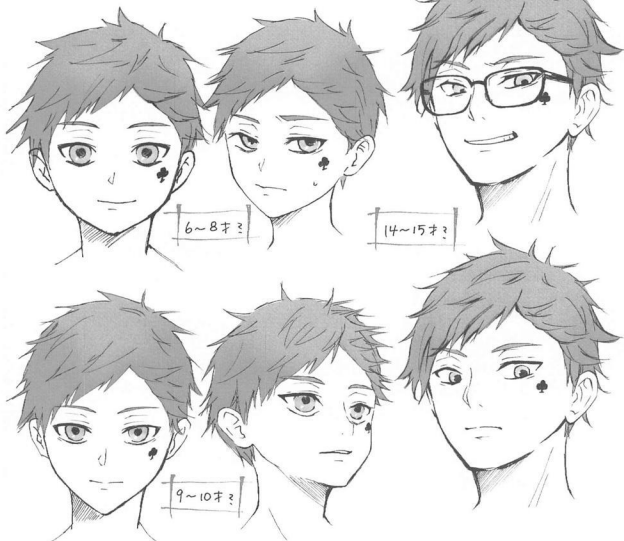
## あとがきとおまけ②



改めまして、こんにちは。眠夏と申します☆  
人生初の同人誌をお手に取って頂き本当にありがとうございます。  
Xとんと大好きなトレジェイを好き勝手描いて約1年。  
まさか本を出せるとは思いませんでした。嬉しい……♪

今回のテーマは『トレジェイ年齢操作』でした。"  
導入小説からそれぞれのトレジェイ世界線に分岐する  
3通りの物語、如何でしたか？

結局本編では  
ずとオツだった  
眼鏡♣

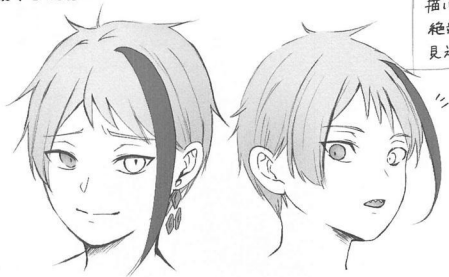


シヨウ具合を決められず  
色々試していたレイさん

当初は徐々に18歳の姿に戻る展開だったのと  
出る予定だった今のミドリスクールトレイさん。  
結果的に6~10歳位までは段階的に戻ったのに  
最後一気に階段すっ飛ばしました。  
全フェイェイドさんが可愛いせい、まっとう。

私はショタおにオ、おにショタオ、ノーマルオ大好きなので(雑食の極み)  
今回ゲストのお2人の素晴らしいトレジェイを談むことが出来て  
大変幸せでした♡

折角なのでショタオも  
描いてみた。  
絶対いたずらする未来しか  
見えない。



最後に。  
いつオX(旧Twitter)と交流して下さる皆様、  
感想下さる優しい皆様、ありがとうございます。  
これからオオ楽しく推し達を描いていけたらな…  
と思っております。  
トレジェイずっと仲良しであれ♡

【愛しのリトルラバー】

発行日:2024. 01. 07

発行者:376Days

眠夏

連絡先:nemu.natsu.tj@gmail.com

X ID:@Nemunatsu\_02

印刷所:大阪印刷株式会社様

御感想など頂けると

とても喜ばます。

元気になってまた色々

描くかもしません。

嬉しいのでぜひ…♡ →



ADULTS ONLY

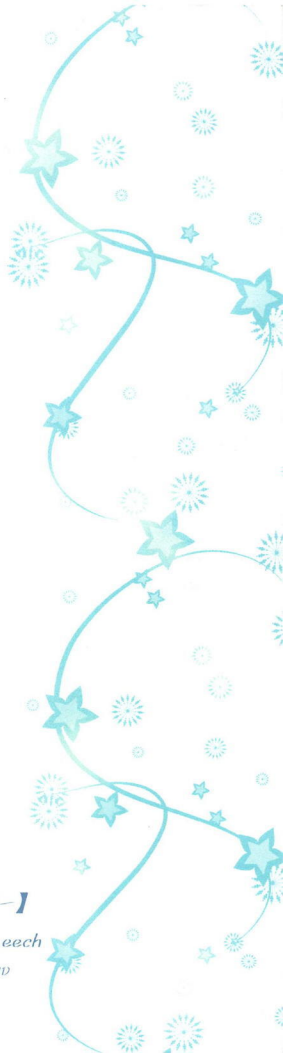
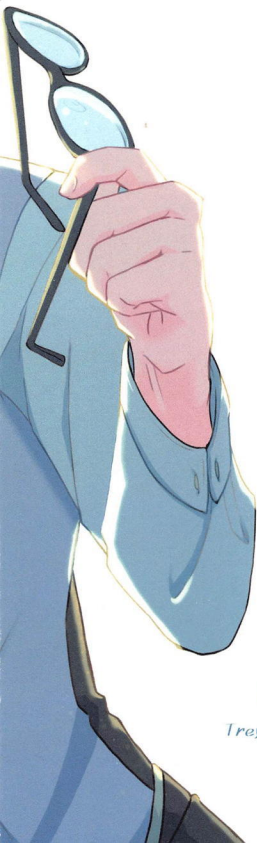
R18+

転載禁止・転売禁止  
DO NOT REPOST / RESELL

18歳未満閲覧禁止

本書の複製・書き・Web上へのアップロード禁止

こちらは非公式ファンブックです。  
二次創作をご存知ない一般の方や、関係者様の目に触れないようご配慮いただき、  
処分する際は中身がわからない状態で可燃ゴミとして破棄してください。



【愛しのリトルラバー】

*Trey Clover X Jade Leech*

*TWISTED WONDERLAND  
unofficial fanbook*